

洗礼準備会 第 1 回

1	はじめに神が天と地を創造された。 (創世記 1 : 1)
2	神は愛です。(ヨハネ第一の手紙 4 : 16) <u>父は御子を愛しておられ、その手にすべてをお与えになった。</u>(ヨハネ 3 : 35)
3	神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。」 (創世記 1 : 26)
4	彼らは、律法の命じる行いが自分の心に記されていることを示しています。彼らの良心も証ししていて、彼らの心の思いは互いに責め合ったり、また弁明し合ったりさえるのです。 (ローマ人への手紙 2 : 15)
5	神について知りうることは、彼らの間で明らかです。神が彼らに明らかにされたのです。神の、目に見えない性質、すなわち神の永遠の力と神性は、世界が創造されたときから被造物を通して知られ、はっきりと認められるので、彼らに弁解の余地はありません。 彼らは神を知っていながら、神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その鈍い心は暗くなったのです。 (ローマ人への手紙 1 : 19～21) また、彼らは神を知ることに価値を認めなかったので、神は彼らが無価値な思いに引き渡されました。それで彼らはしてはならないことを行っているのです。彼らは、あらゆる不義、悪、貪欲、悪意に満ち、ねたみ、殺意、争い、欺き、悪だくみにまみれています。 また、彼らは陰口を言い、人を中傷し、神を憎み、人を侮り、高ぶり、大言壮語し、悪事をたくらみ、親に逆らい、浅はかで、不誠実で、情け知らずで、無慈悲です。彼らは、そのような行いをする者たちが死に値するという神の定めを知りながら、自らそれを行っているだけでなく、それを行う者たちに同意もしているのです。 (ローマ人への手紙 1 : 28～32)

神と人

1. 神は、天地万物を造った創造主なる神です。
2. 神の本質は、愛です。神は最初に存在されるお方ですから、神ご自身の中に愛の関係があります。神は唯一ですが、神ご自身の中に、愛し、愛される関係があります。それが、父なる神、子なる神、聖霊なる神の3つの位格です。
3. 神は、愛し愛される関係になるように、人をお造りになりました。人をロボットのようではなく、自由意志をもち、何を愛し、何から愛されたいと思うのか、自発的に選択できるものとして、お造りになりました。
4. 神は愛であると同時に、正しく清い神です。神は、人の心の中に、神の定めを刻んでおられます。人が悪いことをすると、心が痛むのはそのためです。
5. 神が造られた天地万物を見れば、神が存在すること、神の力やご性質ははっきりと認められるのに、人は神を認めようとはしません。その結果、人は平気で悪を行うようになっていきます。

洗礼準備会 第 2 回

6	神は昔、預言者たちによって、多くの部分に分け、多くの方法で先祖たちに語られましたが、この終わりの時には、御子にあって私たちに語られました。 (ヘブル人への手紙 1 : 1~2)
7	ところで、ちょうどこの日、弟子たちのうちの二人が、エルサレムから 11 キロほど離れた、エマオという村に向かっていた。彼らは、これらの出来事すべてについて話し合っていた。話し合ったり論じ合ったりしているところに、イエスご自身が近づいて来て、彼らとともに歩き始められた。 しかし、二人の目はさえぎられていて、イエスであることがわからなかった。イエスは、彼らに言われた。「歩きながら語り合っているその話は何のことですか。」すると、二人は暗い顔をして立ち止まった。 そして、その一人、クレオパという人がイエスに答えた。「エルサレムに滞在しながら、近ごろそこで起こったことを、あなただけがご存じないのですか。」 イエスが「どんなことですか」と言われると、二人は答えた。「ナザレ人イエス様のことです。この方は、神と民全体の前で、行いにもことばにも力ある預言者でした。それなのに、私たちの祭司長たちや議員たちは、この方を死刑にするために引き渡して、十字架につけてしまいました。私たちは、この方こそイスラエルを解放する方だ、と望みをかけていました。実際、そればかりではありません。そのことがあってから三日目になりますが、仲間の女たちの何人かが、私たちを驚かせました。 彼女たちは朝早く墓に行きましたが、イエス様のからだが見当たらず、戻って来ました。そして、自分たちは御使いたちの幻を見た、御使いたちはイエス様が生きておられると告げた、と言うのです。それで、仲間の何人かが墓に行ってみたのですが、まさしく彼女たちの言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした。」 そこで、イエスは彼らに言われた。「ああ、愚かな者たち。心が鈍くて、預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち。キリストは必ずそのような苦しみを受け、それから栄光に入るはずだったのではありませんか。」 それからイエスは、モーセやすべての預言者たちから始めて、ご自分について聖書全体に書いてあることを彼らに解き明かされた。 (ルカの福音書 24 : 13~27)
8	私たちはあなたがたに、私たちの主イエス・キリストの力と来臨を知らせましたが、それは、巧みな作り話によったものではありません。私たちは、キリストの栄光の目撃者として伝えたのです。 (ペテロの手紙第二 1 : 16)

聖書とキリスト

6. 「終わりの時」と神のことば

- ① 「終わりの時」とは、約 2 千年前にキリストが地上に現れた時以降を指します。
- ① イエスは、紀元前 6 年または 7 年の頃、イスラエル南部のユダヤ地方、ベツレヘムという町で生まれました。
 - ② イスラエル北部のガリラヤ地方、ナザレという村で育ちました。
 - ③ 年齢が 30 代前半のとき、ご自身をキリストであると宣言して宣教活動を展開、多くの弟子たちが従いました。キリストとは「油注がれた者」、イスラエルの王を指します。油は、神の霊を象徴し、王が神のみこころによって任命されること、そして神の霊の導きにしがたって政治を行うことを意味します。
 - ④ 当時のユダヤ指導者層は、イエスをキリストではないと拒否し、紀元 30 年の春、イエスをローマ帝国のユダヤ総督に引き渡して十字架刑にしました。
 - ⑤ イエスは三日目によみがえり、40 日にわたって弟子たちに現れ、神の国のことを語られました。そして天に昇り、父なる神の右の座に着かれました。
 - ⑥ イエスは、再び地上にお帰りになります。そして、王となり、平和と正義の国を建てます。その国が、「天の御国」、「神の国」です。その国は千年間続きます。
 - ⑦ 神の国の千年間まで含めて、「終わりの時」です。
- ② 「神は昔、預言者たちによって、多くの部分に分け、多くの方法で先祖たちに語られました」、それが書かれたものが、旧約聖書です。
- ③ 「この終わりの時には、御子（イエス・キリスト）にあつて私たちに語られました」、それが書かれたものが、新約聖書です。

7. 「モーセやすべての預言者たちから始めて、ご自分について聖書全体に書いてあること」、これは旧約聖書に書いてあることを指します。「ご自分について」、旧約聖書は、キリストが現れること、そして、いつ、どのようにして現れ、何をするのか、など、詳細に預言していました。

8. 「私たちの主イエス・キリストの力と来臨を知らせました」、新約聖書は、キリストが預言のとおり現れたこと、そしてキリストの力を証言しています。

聖書を読み、学ぶことを通して、信者はキリストに対する信頼を深め、希望を持ちます。

洗礼準備会 第 3 回

9	神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者はさばかれない。 (ヨハネの福音書 3 : 16~18)
10	あなたがたの間で先頭に立ちたいと思う者は、皆のしもべになりなさい。人の子も、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのです。 (マルコの福音書 10 : 44~45)
11	神はこの方を三日目によみがえらせ、現れさせてくださいました。民全体にではなく、神によって前もって選ばれた証人である私たちに現れたのです。私たちは、イエスが死者の中からよみがえられた後、一緒に食べたり飲んだりしました。そしてイエスは、ご自分が、生きている者と死んだ者のさばき主として神が定めた方であることを、人々に宣べ伝え、証しするように、私たちに命じられました。預言者たちもみなイエスについて、この方を信じる者はだれでも、その名によって罪の赦しが受けられると、証ししています。 (使徒の働き 10 : 40~43)
12	人はだれも、律法を行うことによって神の前に義と認められないからです。律法を通して生じるのは罪の意識です。 しかし今や、律法とは関わりなく、律法と預言者たちの書によって証しされて、神の義が示されました。すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別はありません。 すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。 (ローマ人への手紙 3 : 20~24)
13	もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。 (ローマ人への手紙 10 : 9~10)
14	私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと (コリント人への手紙第一 15 : 3~4)

罪の赦し

罪が赦される→義と認められる（無罪宣告）→神の裁きを受けない
→永遠のいのちが与えられる→霊的な神の国に入る・・・これが「救われた！」ということ

9. 父なる神は、罪と汚れの中に落ち込んでいる私たちを、愛してくださり、私たちを救うために、子なる神をこの世に遣わしてくださいました。父なる神が御子を遣わしたことを信じる者は、神のさばきを受けません。
10. 御子、イエス・キリストは、王となるために、まず皆のしもべとなりました。そして多くの人の罪の贖いの代価として、十字架にかかり、ご自分のいのちを差し出してくださいました。
11. 父なる神は、御子を三日目によみがえらせ、弟子たちに現われさせてくださいました。そして父なる神は、御子、イエス・キリストを、生きている者と死んだ者のさばき主としてお定めになりました。御子、イエス・キリストを信じる者はだれでも、その名によって罪の赦しが受けられます。
12. 人はだれも、自分の行いによっては神の前に義と認められません。良い行いをしようとすればするほど、私たちの心の中に生じるのは罪の意識です。しかし、御子イエス・キリストが、旧約聖書で預言されていたとおりに、十字架にかかってくださり、私たちの罪のために死んでくださったことにより、神の義が示されています。すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。人は、自分の行いによらず、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められます。
13. 人は、口でイエスを主と告白し、心の中で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、救われます。「口で」というのは、自分のことばにして、という意味です。必ずしも声に出す必要はありません。一度救われたら、その救いは失われません。自分の行いで救われたわけではないので、自分で救いを取り消すこともできません。信者は自分で神につかまっているのではなく、神の御手の中に信者はいるのです。
14. 「救いは、神の恵みにより、信仰を通して」です。信じる内容は、3つです。
 - ① キリストは、私たちの罪のために死なれた
 - ② 葬られた
 - ③ 三日目によみがえられた

洗礼準備会 第 4 回

15	わたしは良い^{ぼくしや}牧者です。良い牧者は羊たちのためにいのちを捨てます。牧者でない^{やと}雇い^{にん}人は、羊たちが自分のものではないので、狼が来るのを見ると、置き去りにして逃げてしまいます。それで、狼は羊たちを奪ったり散らしたりします。彼は雇い^{やと}人^{にん}で、羊たちのことを心にかけていないからです。 (ヨハネの福音書 10 : 11～13) わたしが再びいのちを得るために自分のいのちを捨てるからこそ、父はわたしを愛してください。だれもわたしからいのちを取りません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。わたしには、それを捨てる権威があり、再び得る権威があります。わたしはこの命令を、わたしの父から受けたのです。(ヨハネの福音書 10 : 17～18) わたしの羊たちはわたしの声を聞き分けます。わたしもその羊たちを知っており、彼らはわたしについて来ます。わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。かれらは永遠に、決して滅びることがなく、まただれも彼らをわたしの手から奪い去りません。わたしの父がわたしに与えてくださった者は、すべてにまさって大切です。だれも彼らを、父の手から奪い去ることはできません。わたしと父とは一つです。 (ヨハネの福音書 10 : 27～30)
16	さて、過越^{すぎこし}の祭りの前のこと、イエスは、この世を去って父のみもとに行く、ご自分の時が来たことを知っておられた。そして、世にいるご自分の者たちを愛してきたイエスは、彼らを最後まで愛された。 (ヨハネの福音書 13 : 1) イエスは夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。それから、たらいに水を入れて、弟子たちの足を洗い、腰にまとっていた手ぬぐいでふき始められた。 こうして、イエスがシモン・ペテロのところに来られると、ペテロはイエスに言った。「主よ、あなたが私の足を洗ってくださるのですか。」イエスは彼に答えられた。「わたしがしていることは、今はわからなくても、後で分かるようになります。」 ペテロはイエスに言った。「決して私の足を洗わないでください。」 イエスは答えられた。「わたしがあなたを洗わなければ、あなたはわたしと関係ないことになります。」 シモン・ペテロは言った。「主よ、足だけでなく、手も頭も洗ってください。」 イエスは彼に言われた。「水浴した者は、足以外は洗う必要はありません。全身がきよいのです。」 (ヨハネの福音書 13 : 4～10)

確信

15. イエスは、私たちを「わたしの羊」と呼んでくださいます。私たちは、永遠に滅びることがなく、まただれも私たちをイエスの手から奪い去ることはできません。私たちは、決して救いを失うことがないのです。また、私たちは自分ですら、この救いを捨てることはできません。私たちは自分で救いを握っているのではなく、私たちが御子イエスの手の中に、そして父なる神の手の中に、握られているからです。
16. 「水浴した者は、足以外は洗う必要はありません。全身がきよいのです」、私たちは、御子を信じて、罪を赦されました。「全身きよいのです」とは、そのことを指します。しかし、私たちの心の中には、まだ罪の性質が残っています。それが無くなるのは、私たちが肉体の死を迎えるときです。それまでは、この地上の生活において、私たちは、キリストの律法（戒め）に反することをしてしまうことがあります。そのとき、私たち信者は、水浴して全身きれいになったのだけれど、道を歩くうちに土埃で足だけが汚れた状態になります。

ここで汚れた足をきれいにするのも、人の働きではなく、神の働きです。「わたしがあなたを洗わなければ、あなたはわたしと関係ない」とイエスは言われました。罪は信者と神との関係をこわしてしまいます。これは、救いを失うということではありません。神との交わりができなくなり、神からの力が、祝福が来なくなるということです。

ですから、日々の信仰生活の中で、最も大切なことは、善行を積むことではなく、罪を犯したと気づいたときに、神の前に祈り、自分の罪を言い表すこと、つまり、汚れた足を差し出すことです。神がその汚れをきれいにしてくださいます。それによって、神との交わりが回復します。信仰生活とはその繰り返しですが、私たちは、常に神との交わりの中にあるときに、生き生きとして確信を持ち続けることができるのです。

もし自分には **罪** が無いと言うなら、私たちは自分自身を欺いており、私たちのうちに真理はありません。

もし、私たちが **自分の罪** を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。

(ヨハネの手紙第一 1: 8~9)

罪＝罪の性質、自分の罪＝日々の生活の中でのキリストの律法に反すること

洗礼準備会 第 5 回

17	わたしはあなたがたに<u>新しい戒め</u>を与えます。<u>互いに愛し合いなさい</u>。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。 (ヨハネの福音書 13 : 34)
18	もしわたしを<u>愛しているなら</u>、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。そしてわたしが父にお願いすると、父は<u>もう一人の助け主</u>をお与えくださり、その助け主が<u>いつまでも、あなたがたとともにいる</u>ようにしてくださいます。 この方は<u>真理の御霊</u>です。 (ヨハネの福音書 14 : 15～17)
19	愛する者たち、私たちは<u>すでに神の子ども</u>です。 やがてどのようになるのか、まだ明らかにされていません。しかし、私たちは、<u>キリストが現れたときに、キリストに似た者となる</u>ことは知っています。 キリストをありのままに見るからです。 (ヨハネ第一の手紙 3 : 2)
20	あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には住む所がたくさんあります。そうでなかったら、あなたがたのために場所を用意しに行く、と言ったのでしょうか。わたしが行って、<u>あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます</u>。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです。 (ヨハネの福音書 14 : 1～3)
21	イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに言います。あなたは今日、わたしとともに<u>パラダイス</u>にいます。」 (ルカの福音書 23 : 43) 彼＝イエスといっしょに十字架刑に処せられ、そのときにイエスを信じた犯罪人 <u>パラダイス</u>・・・信者の霊魂が行く場所。イエスの十字架の死と復活までは、よみの中の「アブラハムのふところ」(ルカ 16 : 22) と呼ばれる場所にあった。 イエスが死んで、イエスの霊魂がよみの中のパラダイスに下ったとき、そこには、旧約時代の信者たちの霊魂が、メシアの時を待っていた。イエスが復活し、昇天するとき、イエスは彼らとこの犯罪人を連れて昇天した。今は、アブラハムのふところは、空っぽである。新約時代の信者である私たちは、もはや、よみに下ることはない。死ぬとすぐに、私たちの霊魂は、天使たちに導かれて天のパラダイスに行く。

希望

17. キリストの律法

- ① イエス・キリストは、私たちに「新しい戒め」、新しい律法を与えてくださいました。その内容は、新約聖書の中に、キリストの律法として教えられています。これから、教会の集会などで、少しずつ学んでまいりましょう。
- ② キリストの律法を一言で言うと、信者たちが「互いに愛し合うこと」です。

18. イエスは、キリストの律法を守ることに、二つのことを教えました。

- ① 第一に、私たちがキリストの律法を守るのは、イエスを愛するからです。イエスを愛するからこそ、私たちはイエスのことばに従いたいと願い、そのように行動するようになります。義務感では信仰生活はできません。
- ② 第二に、私たちがキリストの律法を守ることができるように、イエスは私たちに「もうひとりの助け主」を与えてくださいます。そのお方は、真理の御霊です。
 - ① 聖書の中では、御霊、神の霊、聖霊などとも呼ばれます。
 - ② すべての信者は、イエス・キリストを救い主として信じたときに、聖霊を受けました。修行や善行を積むことで受けるものではありません。
 - ③ 聖霊は、信者の中に、一時的に滞在するのではなく、「いつまでも」ともにいてくださいます。「住む」と表現されることもあります。私たちは、私たちの内に住んでくださる聖霊の助けにより、信仰生活ができます。

19. キリストの律法を守ること、神の子になるわけではありません。信者は信じたとき、すでに神の子とされています。では、何のために、聖霊の助けによってキリストの律法に従っていくのでしょうか。それは、キリストに似た者となる、です。それが完成するのは、キリストの現れのときです。これが信者の希望です。

20. イエス・キリストは戻って来られます。そのとき、私たちには、永遠の朽ちない体、栄光の体が与えられます。そして、私たちを天の父の家に連れていってくださいます。そこには、私たちのための場所、永遠の住まいが用意されています。このあと、キリストは地上に帰り、千年間、王として支配します。その王国が終わると、新しい天と新しい地が造られ、私たちの永遠の住まいは、新しい地の上に降りてきて据えられます。そして私たちは永遠に、神と共に住みます。これが信者の究極的希望です。

21. イエス・キリストが戻って来られる前に、信者が死ぬと、その霊魂は「パラダイス」に行きます。肉体の死とは、肉体から霊魂が分離することです。天使たちが迎えに来て、信者の霊魂はパラダイスに入ります。永遠の体を受け取るまで、先に来ている信者たちの霊魂と共に待ちます。

神・天使・サタン

1. 神は、天地万物を造り、人を造ってくださった**創造主なる神**です。
2. 神は、愛なるお方です。愛は、愛し、愛されるという関係があって成り立ちます。神は唯一の神ですが、**父なる神、子なる神、聖霊なる神**の3つにおいて存在し、互いに愛し合う関係です。これを、「三位一体の神」と呼びます。
3. 神は人を造る前に、天使を造りました。
 - (1) 天使は、肉体を持たない、霊的存在です。霊的世界で活動するだけでなく、物質界であるこの世界に現れることもできます。
 - (2) 天使は、人よりもはるかに高い知能と強い力を持っています。天使は、ロボットのようにただ神に従うのではなく、自由意志を持っています。
 - (3) 神に従い続け、聖なることが確定した天使が、**聖なる天使**です。彼らは、罪を犯しません。
 - (4) 神に従うことを選び取らず、神に反逆したのが、**墮天使**です。聖書では、汚れた霊とか、悪霊とも呼ばれます。彼らはもう、聖なる天使には、なれません。
墮天使のトップ、リーダーが**サタン**です。悪魔とも呼ばれます。
4. 人とサタンとの関係
 - (1) サタンが墮天使になるまでは、サタンは**天使の中でも最高の地位**にあり、**地球とその上のエデンの園の支配者**でした。しかし、サタンが墮天使になったときに、神は、サタンをその地位から外しました。そして、人を造って、地球の新たな支配者とし、人をエデンの園に住まわせました。
 - (2) 他方、神は、サタンと悪霊のために**火の池**を用意し、日を定めて、彼らをそこに送ることにしました。
 - (3) サタンは、自分と配下の悪霊が火の池に行かないようにするには、どうしたらよいのか、考えました。サタンは、人を人質にするという策略を立てました。
【人を惑わして神に逆らわせ、自分の支配下に置く。もし神が自分たちを火の池に送り込もうものなら、人も道連れになる。こうなれば、神は手を出せなくなる】
 - (4) 最初の人アダムとエバは、サタンの策略に、はまってしまいました。地上の支配権もサタンに奪われ、サタンは「**この世の神**」となりました。
 - (5) **この世の流れ**は、人の目を神からそらし、人を支配下に置き続けるためのサタンの**策略**です。
 - ① 偶像崇拜や占い、霊媒など・・・超常現象やご利益は実際ある。その背後には悪霊が働いている。霊媒では、悪霊が死者の霊を演じている。
 - ② 快楽や金銭を追求させる・・・人を腐敗させ、滅ぼすことにつながる
 - (6) 信者は、この世の流れに乗らないように、この世から取り分けられた者たちです。